

るみねい
冷光と銀座の夜を後にして
新しき部屋バラふたつ

令和五年二月二十八日

大中臣正比呂



(演歌) 愛の問い

(一) 別れた人は白きバラ

来たれる人は赤きバラ

愛のいずれを突かまことと

人は瞼まぶたを閉じて問ふ

夜道は寒き二月頃ころ

人肌恋し酒を注ぐひとはだ

(二) 去りぬる日々は白きバラ

向かえる日々は赤きバラ

命は永遠とわかまぼろしか

人は瞼まぶたを閉じて問ふ

夜明けは緑春の頃

桜は吹雪く堀の面おも

